

【数字を読み解く】 「30万人」  
～県の「観光統計調査」 2023年1月の延べ宿泊者数～  
<2023/3/3 大分合同新聞掲載>

数字は、大分県が毎月公表する「観光統計調査」にある、2023年1月の大分県の延べ宿泊者数（速報値）だ。

本調査は、行政などの観光振興戦略の策定や観光事業者らのマーケティング活動に役立てることを目的に、大分県が実施している。このうち宿泊者数の調査対象は、従業員数10人以上の全宿泊施設となっており、今年1月時点で189施設ある。

大分県における今年1月の延べ宿泊者数は30万人。県内の推計人口が110万人程度である中、相応の規模に上がることが分かる。新型コロナウイルス感染症の影響がなかった19年1月対比ではマイナス21.7%の減少であった。

出発地別の内訳をみると、国内客（25.4万人）は県内を含む九州域内からの宿泊者数の減少により、19年1月を1割ほど下回ったが、全国旅行支援の後押しもあって、関東や近畿、中部からの宿泊者数は19年1月を上回った。

他方、海外からの宿泊者数（4.6万人）は19年（9.3万人）の半数程度にとどまったが、入国制限が緩和された昨年10月以降、韓国や台湾、香港などを中心に持ち直してきている。特に、今年1月の韓国からの宿泊者数は3.2万人と、昨年9月の1945人から大幅に増加している。また、タイや米欧豪などからの宿泊者数も、コロナ禍前を上回った。

なお、今年1月における中国からの宿泊者数（644人）は、19年1月（8191人）と比べて大きく落ち込んでいるが、今後、回復していくことが期待される。今後も感染対策と経済活動の両立が進む中、持ち直しに向かう観光業の動向を注視していきたい。（日本銀行大分支店）